

図書だより

石川県立金沢桜丘高等学校
図書委員会広報係①作成
2016. 7. 14発行

散れば咲き散れば咲きて百日紅

… 千代女

期末試験も終わり、夏休みは目前に迫っています。勉強や部活動に没頭し、より濃い時間を過ごすためにも計画を立て実行しましょう。その計画に、読書や興味ある分野について深く知る時間を入れ、単調なスケジュールに変化を持たせてはいかがでしょうか。そのために、図書委員がいくつかお薦めします。

図書委員おすすめの本

「瑠璃でもなく玻璃でもなく」 唯川 恵 著 集英社文庫

26歳で未婚のOL美月は、年上の同僚の彼氏と付き合っている。しかしその彼氏には妻がいる。いけないとわかっていても、美月は彼にどんどん魅かれていく。思いを募らせながら日々を過ごすうち、やがて彼の妻と出会うことになるが……。

最近何かと世間を騒がせる“不倫”を扱った作品。ただし語り口調や会話が絶妙でドロドロ感ほぼ皆無です。作者が金沢出身なので、ぜひ手に取って欲しいです。

「そして、君のいない九月がくる」 天沢 夏月 著 メディアワークス文庫

高2の夏、恵太が死んだ。呆然としたまま夏休みを送っていた仲良しグループ美穂、大輝、舜、莉乃の前に現れたのは、なんと恵太のドッペルゲンガー。恵太に瓜二つなその少年は、彼らに「頼み」があると言う。それぞれの思いを抱えながら、四人は恵太が死んだ烏蝶山まで旅に出ることになるのだが……。彼への嘘や嫉妬、後悔に恋心。恵太が死んだ真実とは。高校生たちの一夏の冒険。隠された思いを巡る青春ミステリ。

「世界堂書店」 米澤 穂信 編 文春文庫

アニメ化もされた『氷菓』を手がけた米澤穂信さんが編集した、この本は日本の源氏物語を海外の作家が手がけたものから始まります。アメリカ・イギリス・フランス・中国・フィンランド・ギリシアなど、たくさんの国の不思議なお話が詰まっています。

「星の巡礼」 パウロ・コエーリ」著 山川紘矢・亜希子 訳 角川文庫

この本では、試験に失敗し、奇跡の剣を手にすることができなかった一人の男性、パウロの物語が描かれています。パウロは「星の道」という巡礼路を旅するのですが、まるで私も共にその巡礼路を歩いているような気持ちになりました。疲れてしまったり、何もかもがうまく行かなくて落ち込んだりした時に読むと、とても勇気をもらえると思います。

「ミッキーマウスの憂鬱」 松岡 圭祐 著 新潮文庫

私が薦めるこの本は、主人公が私達の大好きな夢の国である「ディズニーランド」でアルバイトをしているという話が描かれています。テーマパークを訪れてくるゲストを楽しませている技術の裏には見えない努力、現実の厳しさなどが伝わってくる作品です。しかしその現実を生きる私達に勇気を与えてくれるような話なので、ぜひ読んでみてください。

選定会に行ってきました！



◎6月14日、東急スクエアのうつのみや香林坊店で、図書選定会がありました。参加人数は11人くらいでした。～桜丘高の図書館で、多くの生徒が利用することを意識して選定するように～と司書さんのアドバイスもあり、普段から学校の図書館にあればいいのに、と思っていたものや、それぞれが気になった本を手にとって選んできました。

◎選定会に参加して、皆それぞれ、色んな興味があるのだなと思いました。選ばれた本には、小説、美術の本、数学の本、心理学の本など、本当に様々なジャンルがありました。

◎選定会は初めてでしたが、文化教室のあとというタイミングだったので、「楽しそう！」と思い参加しました。たくさんの本の中から、選定するのはちょっとプレッシャーも感じましたが、大人目線で探したりしました。みんなが利用してくれれば嬉しいです。



「ちょっと今から仕事やめてくる」 北川 恵海 著 メディアワークス文庫

ブラック企業にこき使われ、無意識に線路に飛び込もうとした隆を助けてくれたのは、元同級生、ヤマモト。彼のアドバイスにより少しずつ前向きになり始めた隆だが、彼は本物の同級生ではなかった。ヤマモトの名前を検索して出てきたのは、3年前に激務で自殺した男のニュースで——。ラストはかなりスカッとできてちょっと明日が前向きになる、優しい物語。

第一回 POP 講習会

4月21日、図書委員を中心にPOP講習会が行われました。POPとは、本屋さんなどに
ある、その本が読みたくなるようなキャッチコピーがかいてあるものです。
この講習会ではPOPのかき方を教えてもらいました。



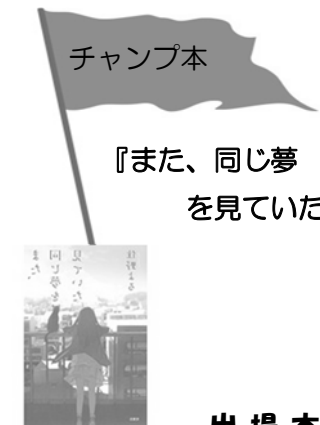
感想 (事後アンケートより)

- 良い作品を創りたい。
- 楽しかった。
- 色合いなどの工夫が大切。
- POPの上達法がわかった
- 見本が見やすく参考になった
- 『ピレバン』の店員の気分になれた。
- 本の内容を1枚に収めるのが楽しかった。
- 本の伝えたいことを掴んで書くことができた。
- 楽しいのに図書委員しか来ないのはもったいない



第一回ビブリオバトル開催

6月16日、大会議室を会場に、ビブリオバトルが開催されました。発表者は、参加者
に「読みたい!その本!!」という気持ちを持ってもらうため、あらかじめ工夫を凝らし
準備を進めていました。



感想 (事後アンケートより)

- 設定時間内にたくさんある伝えたいことを詰め込むのは難しいことだと思うけど、みんなまとまりがあってとても良かった。
- 自分が普段選ばないような作風の本も、先入観にとらわれず読んでみたいと思った。
- みんなの発表が上手すぎて脱帽です。とてもおもしろかった。
- 本の魅力をそれぞれ違った方法で伝えていてとても興味がわいた。

出場本の面々

『薬指の標本』	小川 洋子 著
『また、同じ夢を見ていた』	住野 よる 著
『死亡フラグが立ちました!』	七尾 与史 著
『AB型 自分の説明書』	Jamais Jamais 著
『フリーター、家を買う』	有川 浩 著
『甲子園が割れた日』	中村 計 著



新入生課題読書感想文

入学時の課題だった感想文から2作品紹介します。
このころの気持ちを憶えていますか。

課題図書『おはようからおやすみまでの科学』—この本を初めて読んで—

私が「おはようからおやすみまでの科学」を読んだことは、自分の生活を考え直す良い機会になりました。また、この本を読んで、二つのことが印象に残りました。

一つ目は、パプアニューギニアからの留学生が「故郷の父親は何をやっているか」という問いに対して、「何もやっていない。」と答えたことです。では、彼らはどうして暮らしているかという、木の実を採って、それを食べて暮らしているそうです。そのことに対して、本当にそうやって生きている人がいるんだなと思い、どんな生活をしているか少し興味が湧きました。中学校の社会の教科書や資料に少し書かれていたのですが、それだけでは全然現実味がありませんでした。日本のほとんどの人々は、お金と引き替えに食べ物を得ていて、私自身もそうやって暮らしているの、直接自然の中から食べ物を採るということはレジャー以外では想像もできませんでした。しかし、この本を読んで、現在の私たちの生活は科学によって支えられていると感じました。

二つ目は身近な生活にある科学の例としてとりあげられた冷凍食品の、冷凍する技術です。私は冷凍食品が急速に冷凍されてできているとは知っていました。しかし、

その理由については考えたことはあっても、きちんと調べたことはありませんでした。なので、この本を読んで、冷凍するとき食品の組織の中に氷ができて食品の組織を破壊しないようにするために急速に冷凍していると知ったときは、自分の中の疑問が一つ解けてすっきりしました。

私は今の世の中の便利さのバランスが大事だと思います。これ以上世の中が便利になると、手作業でやる楽しさや達成感が失われるからです。機械のボタンを押すだけというのはつまらないし、機械を使わずに一から全て手作業でやっていくのは大変です。なにより世の中が便利になればなるほど、エネルギー消費量が多くなり、地球温暖化のような地球全体での環境問題が悪化するかもしれないので、適度に機械にたよりながら作業を楽しめる今の世の中が一番いいのかなと思いました。

皆さんは便利についてここまで深く考えたことはありませんか。私はこの感想文を書くまでありませんでした。この経験も含めて、この本では私の生活を見直す本当にいい機会となりました。

課題図書『あなたの勉強法はどこがいけないのか』

僕は、この本を読んで良い勉強法はスポーツにも同じことが言えるなと思いました。

「得意」は「素質」の反映ではない。これは、生まれつき記憶が得意な人が絶対的に頭が良くなる訳ではない、ということです。サッカーをしている僕にとって、これは生まれつき足の速いプレイヤーは必ずしも良いプレイヤーになるとは限らないという意味に置き換えられます。ですが、両者も生まれつきの素質に頼らず練習すればいい結果が生まれるのです。

もうひとつ、筆者は、「能力=素質×勉強」と言っています。これは、どちらかが0に近いと能力もそれに比例して低くなるという意味です。筆者は、こう主張しているけれど、私はそうは思いません。僕は「能力=勉強×(素質+勉強)」だと思います。筆者の主張だと、どれだけ勉強しても素質が0だと無意味だということになります。ですが、「能力=勉強×(素質+勉強)」だと、素質が0だとしても勉強をしっかり積み重ねれば能力は上昇することになるし、さらに、素質がどれだけあっても勉強を怠ると能力も低くなってしまいうということでもあります。僕は、勉強においてもスポーツにおいても、素質や元の能力よりも重要なことは、練習だと思っています。素質

がそれほどでなくても、取り組み方しだいで得意にできると思うし、取り組み方しだいで得意にできると思うし、僕はどんな時もうぬぼれずに練習していこうと思いました。

スポーツや勉強における練習は何のためにするのか。それは大事なところで既存知識を有効的に使うためだと筆者は主張しています。僕は本当にその通りだと思います。スポーツでは試合や公式戦、勉強では入学試験やテスト、それぞれにそれまで自分がやってきた練習の成果である既存知識を有効的に活用しなければ全く意味がありません。だから、練習の時から試合などの本番を意識して、やらなければならないと思いました。

良い勉強法はスポーツにも置き換えられ、素質に頼るのではなく、練習の取り組み方を工夫することが大事だとわかりました。そして僕が今苦手なことも取り組み方次第でどうにでもなる、という考え方に変わったので自分の苦手なことでも自分から積極的に取り組もうと思いました。

この本を読んで、自分の物事に取り組む姿勢を見直そうと思いました。取り組み方しだいで何でも得意にできるので日頃の行動をしっかりしていこうと思いました。